

## ILL 業務の効率化について

金沢大学附属図書館参考調査係  
宗近美佐子

### 1 はじめに

学術情報センターでは、平成 4 年 4 月から ILL (Inter-Library Loan: 図書館間相互貸借) システムの運用を開始した。相互貸借とは、「ある図書館が、同一機関に属さない他の図書館の要求に基づき、自館の蔵書中から必要資料を貸し出し、あるいは当該資料の複写物を提供する業務」である。総合目録データベースを構築するための NACSIS-CAT (目録システム) により、NACSIS-ILL (ILL システム) は学術情報の流通を促進する上で重要な役割を果たしているといえる。

本レポートでは、相互貸借業務を行っている立場から、金沢大学での現状を踏まえながら ILL 業務の効率化について考えてみた。

### 2 ILL システム

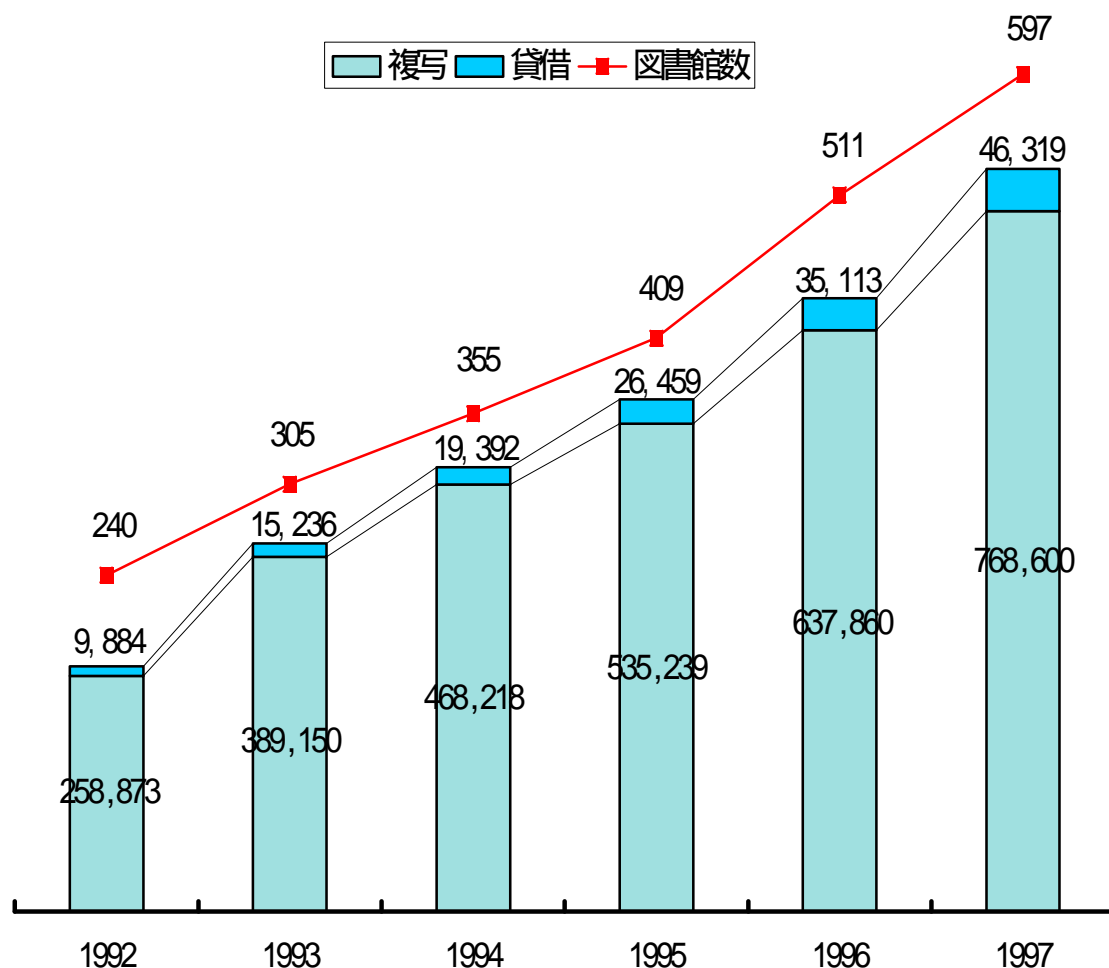
#### 2.1 ILL システムの歩み

平成 4 年 4 月 NACSIS-ILL の運用が開始された。平成 5 年 4 月 NACSIS-IR (情報検索サービス) からの ILL 申込機能として REQUEST コマンドが付加された。平成 6 年 4 月 ILL システムを利用して BLDS (British Library Document Supply Center: 英国図書館文献供給センター) への外部依頼機能が追加された。平成 8 年 4 月 NDL (National Diet Library: 国立国会図書館) へ、外部依頼サービスが開始された。

#### 2.2 現状

NACSIS-ILL による依頼レコード件数及び参加機関数の推移は年々増加している。(図 1) 貸出よりも複写サービスが大きな割合を占めている傾向にある。ILL 業務の増加の要因として CAT/ILL システムサービスの整備が考えられる。総合目録のレコード件数として平成 10 年 10 月 2 日現在、図書書誌 3,847,370 件、雑誌書誌 219,639 件であり、総合目録データベースが充実してきた。その他にも British Library とその Backup Libraries や国立国会図書館へもオンラインで文献申込ができるようになり、依頼が容易になった。会計的な面として、国立大学間においては複写料金が相殺されるという制度があるというのも要因の一つであろう。

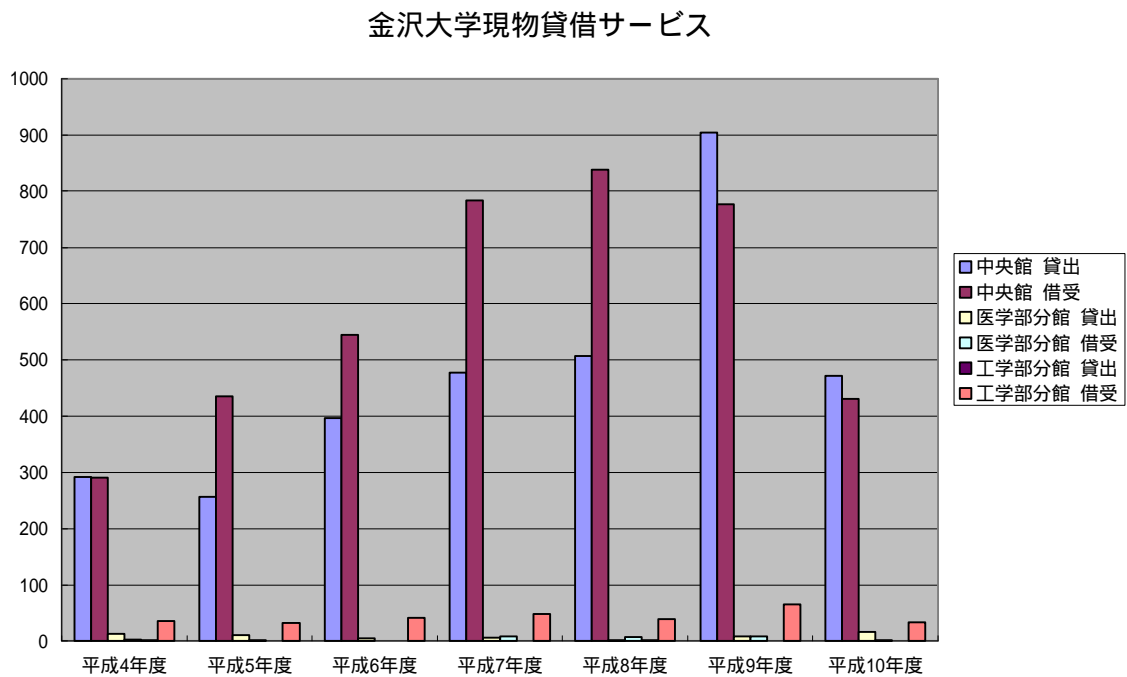
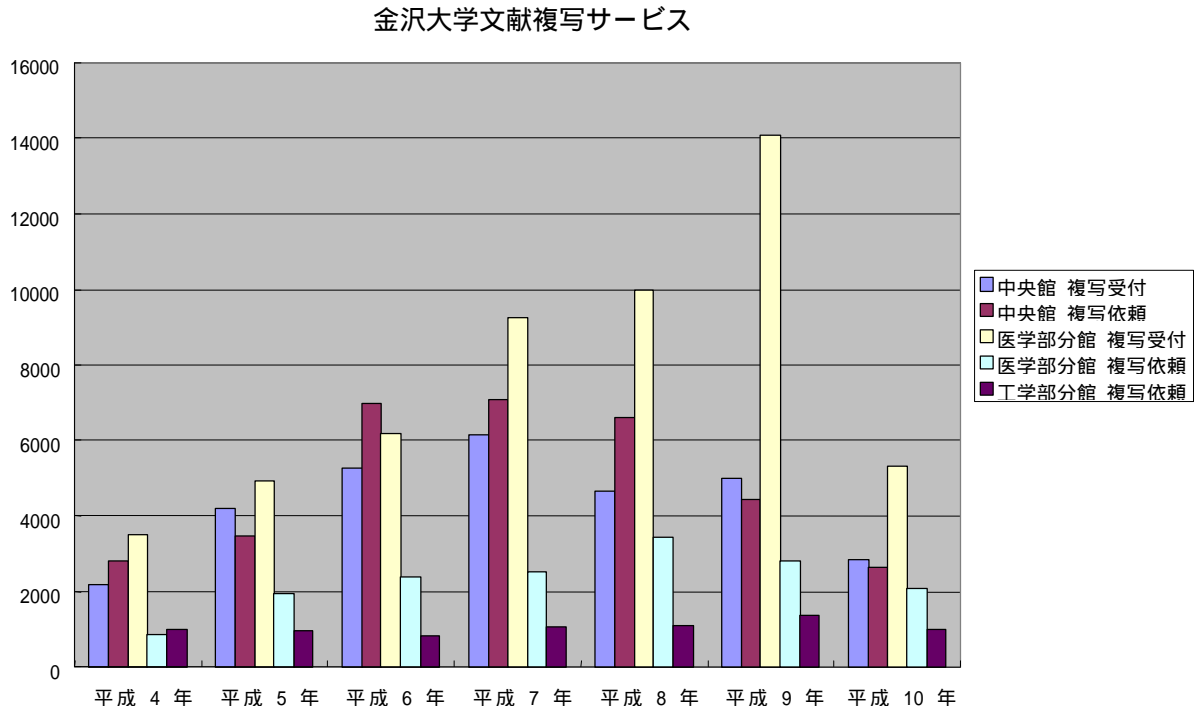
図1 NACSIS-ILLによる依頼レコード件数及び参加機関数の推移  
 - NACSIS-ILL利用統計(<http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/ILLO/ILL.toukei.html>)から



### 3 金沢大学における現状

金沢大学における図書館間の相互協力サービスは図2の通りである(NACSIS-ILL以外の依頼, 受付も含む。薬学部は中央館に含まれる。平成10年8月までのデータ)。現在, 自館での複製(貸借)依頼は, 利用者に文献複製(貸借)申込書に必要事項(誌名, 著者名, 論文名等)を記述してもらい, ILL担当者が検索・所蔵確認し, 分館または学外へ依頼を行う, という方法が多数をしめている。NACSIS-IRからREQUESTコマンドを使って申し込む方法もあり, BIBやVLNO, ARTCLなどの入力されているため, 業務時は依頼館を選択するだけでよい。だが, IRユーザのみしか使用できないという制限があり, 利用者は少ない。

図2 金沢大学における図書館間相互協力サービス



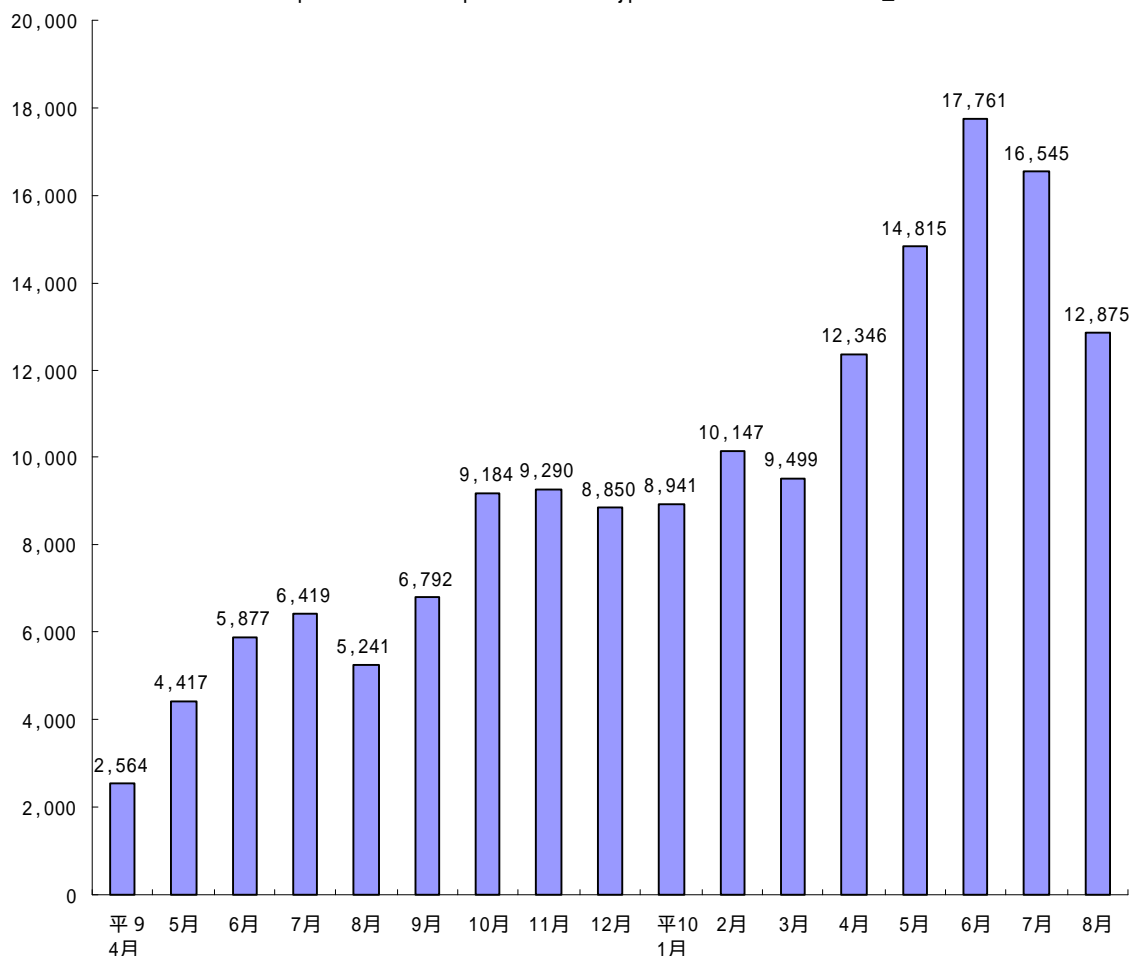
### 3 Webcat

平成 10 年 4 月から、総合目録データベースの WWW 検索サービスである Webcat の本運用が開始された。その特徴として 一般的なブラウザから利用することが可能、年中無休サービス、簡易な検索機能しか提供されない、が挙げられる。ネットワーク環境が整備されてきたこともあり検索利用回数の増加がみられる。

金沢大学においても、自分で検索して、検索結果を文献申込書に記述するという利用者がみられる。今まで学内にない為あきらめていた学生も、Webcat により文献依頼を申し込みやすくなったからであろう。利用者サービスから考えると、ILL 担当者の検索は省略されるが、申込者側からすると検索し、その内容を申込書に書き込むという手間がある。中には、OPAC (Online Public Access Catalog: オンライン利用者用目録) で検索した上で Webcat を検索してから申し込む、となるとサービスの効率が悪いように思う。

図3 Webcat利用統計（日平均検索回数の推移）

- [http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/webcat/webcat\\_stat.html](http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/webcat/webcat_stat.html) から -



#### 4 新 ILL システム

平成 9 年 4 月新 CAT システムクライアントのテスト用のサーバ開始され、平成 9 年 11 月新 CAT 業務用・教育用サーバを公開した。新 ILL については、平成 9 年 11 月テスト用サーバを公開し、平成 10 年 4 月業務用・教育用サーバを公開した。平成 10 年 11 月新 CAT/ILL システム全国説明会が開催される予定である。また、平成 16 年には、全てのユーザに新 CAT/ILL システムの完全移行を予定している。

新システムの開発を促す要因として、ダウンサイジング、インターネット時代の新しい図書館サービスへの対応、急激な利用者増への対応、多言語資料への対応、の 3 点が挙げられる。

##### 4.1 現行システムとの相違点

新システムでは、新しいプロトコル CATP を採用し、画面ではなくデータそのものを交換するという形になり、接続ソフトウェア（クライアント）の画面構成や操作方法に違いがある。そのためより自由度の高いローカルシステムの構築を促進することになり、クライアントの設計によって、現行 ILL システムで不便な部分を解決したり、新しい機能を追加することができる。

##### 4.2 新 ILL システムの利用例

###### 4.2.1 書誌検索

依頼時の所蔵検索の際、自館（ローカルデータベース）に求める資料が所蔵していないことを確認して、自動的に総合目録データベースを検索する。

フルタイトルキーの追加により、タイトルが短い書誌の同定が容易になった。例えば、現行 ILL システムでは”Nature”, ”Science”等の雑誌を探し出すことが困難であったが、フルタイトルキーで検索することにより、すばやく正確に書誌を見つけることができる。

Webcat の利点でもあった、図書と雑誌ファイルを同時に検索もできる、ということもクライアント次第では可能になる。図書か雑誌かあいまいな資料の検索に便利である。

###### 4.2.2 依頼

e-mail や WWW 上の画面から、利用者からの依頼を受け付ける。

具体例として、「熊本大学における CATP プロトコルを使ったオンライン ILL 申込機能の開発」がある。熊本大学では、平成 10 年 9 月 28 日から CATP を使ったオンライン ILL 申込のサービスを開始した。熊本大学内のユーザ（事前にユーザ登録が必要）が附属図書館ホームページの「オンライン ILL 申込画面」で入力したデータを編集し、CATP を使って NACSIS-ILL のサーバに接続して「準備中」の ILL レコードを自動作成するというものである。さらに全国的に利用頻度の多い洋雑誌について、「ベストユースリスト」を用意して、Webcat 検索を省略して申し込む方法もあるようだ。業務・サービスの効率化及

び利便性を考慮した点において、画期的なことであると思う。他大学でも利用・改善できるように、ソフト群を公開予定しているそうで、依頼館業務の効率化を図る上で、期待していきたい。

依頼の処理状況を利用者がチェックできる。求める資料の到着が遅れた場合の利用者への応答や、既に資料が到着しているにもかかわらず、利用者と連絡のとれない場合の手間が省かれる。

#### 4.2.3 受付

依頼館業務（申込）の効率により、件数が増加して受付館にとって負担が大きくなると考えられる。CATP を活用することによって、受付時に書誌データから自館の目録検索を行い、所蔵を正確に確認する。受付、発送、確認などを自動一括処理する、文献の画像伝送システムと新 ILL システムとの連動により、複写物の郵送や ITEM, QNT 等のデータが簡便になる、等の機能装備も考えられる。

#### 4.2.4 その他

いままでセンター側で行ってきた機能のうちいくつかは、新 ILL になってできなくなるため、クライアントで機能を実現しなければならなくなる。例えば、依頼日・受付日等の日付の付与や、貸借業務を行う上での督促メッセージ表示機能、受付機能を持つための、料金自動計算・返却期限の自動セットがある。

ユーティリティ業務の個別館統計もクライアント側で装備することになる。ただし、ニュース、ILL レコード統計は Web 上で公開という形になるようだ。

雑誌の変遷情報である変遷マップについても考慮が必要になってくるだろう。

#### 4.3 将来の変更予定

将来の変更予定として、BLDSC Serials File の参照ファイル化が追加されるというものがある。また、今まで BL からのステイタス・レポートが封書で送られてきたものが、ILL 画面から送信される予定があるということは、迅速な処理が期待できる。ただ、Backup Libraries については該当せず、今まで通り NACSIS 以外での調べが必要という課題が残る。

#### 5 考察

新 CAT/ILL システムでは、ローカルシステムの自由度が増す分、ローカル側の開発の負担が大きくなる。そのため、新システムに関して情報交換が重要になる。学術情報センターの広報だけでなく、実際に業務として使っている機関の状況が参考になっていくであろう。

ILL 業務は、資料を求めに出かけたり、現物貸借のための梱包をしたりと、どうしても

省略できない業務を抱えている。その中で、新システムでのクライアント側の設計は、より業務の効率化が期待できるであろう。ただ、まだ実際業務を行っている機関は少なく、これから課題が生まれてくるであろう。

## 6 おわりに

金沢大学では、10月に新システムについて対応業者が決り、これからローカル側の意見・要望がではじめることであろう。今回研修中で学び、自分なりに考えてきたことを役立てていきたいと思っている。

## 参考文献

- ・ 図書館情報学ハンドブック (丸善), 1988.3
- ・ 平成10年度第1回総合目録データベース実務研修資料 目録システム総論(図書), 1998.9
- ・ <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/ill.toukei.html>
- ・ 金沢大学附属図書館概要 1997/1998, 1997.7
- ・ 金沢大学附属図書館業務用統計
- ・ <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/INFO/ncdb.html>
- ・ オンライン・システムニュースレター No.59, 1997.6
- ・ オンライン・システムニュースレター No.60, 1997.9
- ・ 新 ILL クライアントシステム作成のためのガイドライン, 1997.11.30 更新
- ・ <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/INFO/illreq/>
- ・ <http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/newcat/guideline-ill.html>